

1. 講義の主旨

本講義においては、以下の二点を考えたい。

- ・ 日常の風景を支える空間計画が、非日常時においては、どう変わらねばならないのか？
- ・ 非日常時に計画された事業が日常においてどう機能するのか？

20 年前の阪神淡路大震災、5 年前の東日本大震災に学ぶことを中心にして、外部から二名の先生方をお招きする。

2. スケジュール

5 月 11 日：窪田

- ・ 東日本大震災における復興とは何か
- ・ 阪神淡路大震災における復興とは何か
- ・ 必読論文や参考文献の紹介

5 月 18 日：田中暁子先生（公益財団法人後藤・安田記念東京都市研究所）

昭和三陸津波からの復興・復旧の際は、内務省によって「部落の高地移転」や「敷地の地上げ」、「防浪堤」などが津波防護対策として考えられた。各自治体において、どのように復興計画が決まって行ったのか。田老村の防浪堤築造や市街地再建に関する記録を紐解きながら、東日本大震災からの復興と対比しつつ、自治と復興、空間計画のあり方について考える。

防潮堤の建設。

講義を受けて考えたことについて、A4 一枚程度のメモを提出。

5 月 25 日：田中正人先生

被災地では、激しくコミュニティが流動化する。そこには自主的な移動があり、一方では他律的な移動がある。豊富な選択肢のもとでの意志決定があり、過酷な二者択一のもとでのそれがある。阪神・淡路大震災をはじめ、新潟県中越地震、東日本大震災、紀伊半島大水害、広島土砂災害など、各地での被災者の移動とその背景を見つめることを通して、避難生活、居住地選択、再定住地の空間計画のあり方を議論する。

講義を受けて考えたことについて、A4 一枚程度のメモを提出。

6 月 1 日：窪田

5 月 18 日と 5 月 25 日にご講義いただいたことをふまえて全員で議論する。

3. 評価

点数は、必読論文などもふまえて、具体的な災害復興の事例を対象にしたレポートを提出してもらい、採点する。